

中ノ門

姫路城の南側に広がる堀の中央には、かつて中ノ門と呼ばれる門があった。城の外郭の主要な門であり、城の正門である大手門と道でつながっていたため、高位の訪問者が城に向かう際のルートになっていた。中ノ門は夜間閉められており、日没後に通ることを許されていたのは緊急呼び出しの医師のみであった。

中ノ門は、城への道と西国街道という主要な交易路の重要な交差点の近くにあった。そのため、近くの看板には領民への通達が掲げられていた。